

# いしづち

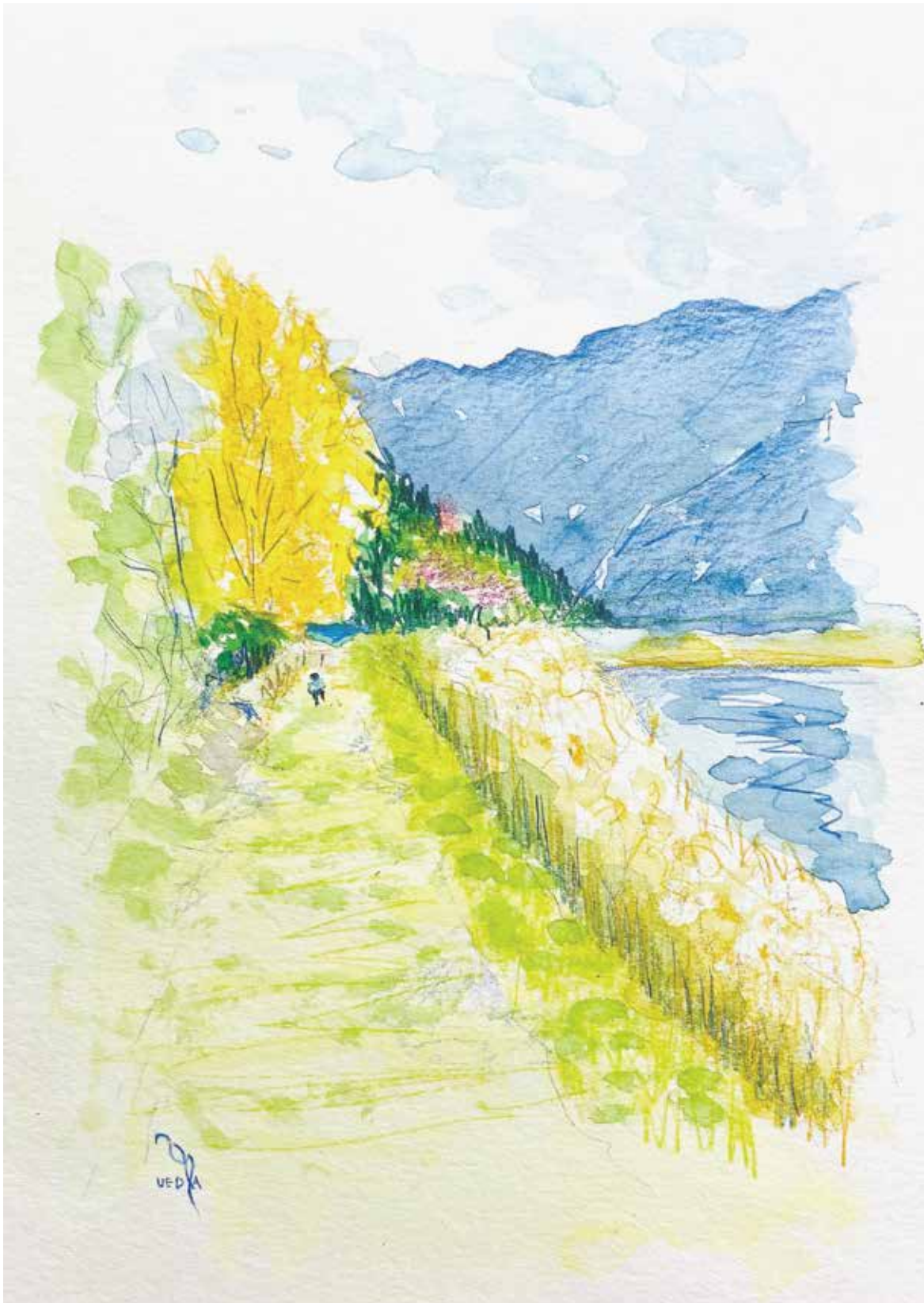
2022.1

JANUARY

No.144

 公益社団法人 愛媛県建築士会  
Ehime Society of Architects & Building Engineers  
<http://www.ehime-shikai.com>

年頭にあたり  
大正時代の道後温泉について  
世界建築紀行 メキシコのことを知っていますか？



CONTENTS

1	年頭にあたり	愛媛県建築士会 会長 赤根 良忠……①
2	大正時代の道後温泉について	道後温泉事務所 一級建築士 野本 健……②
3	世界建築紀行	メキシコのことを知っていますか? 西予支部 松山 清……③
4	年男・年女	継続・研究・集中 四国中央支部 岸 良一……⑭ 一番若い今年にできること 四国中央支部 斎藤 清至……⑭ 気付けば年男 新居浜支部 浅野 憲一……⑭ 今年、還暦を迎え思ふこと 西条支部 越智 忠美……⑭ 年男の抱負 今治支部 越智 泰弘……⑭ 年男の縁起を担ぐ 松山支部 白石 学……⑭ これからの12年 松山支部 松平 定真……⑮ やっぱり今年も!! 松山支部 西山 ゆか……⑮ 年男・年女の抱負について 伊予支部 西田 有輝……⑮ 寅年の私 八幡浜支部 矢野 美紀……⑮ 新年を迎えて 西予支部 和氣 巨秀……⑮ 1962 宇和島支部 藤井 英樹……⑮
5	委員会活動報告	ヘリテージ研修会報告 松山支部 大塚美由紀……⑯
6	けんちくの輪	ジューサンケンチクセッケイ 石村です。 松山支部 石村 隆司……⑱ よもやま話 宇和島支部 石川 淳……⑱
7	お知らせ	第4回理事会概要報告 事務局……⑳ 専攻建築士（新規・更新）登録申請受付期間について 事務局……㉑

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画

題：「近藤本家屋敷跡付近  
(東温市河之内地区)」

[表紙画について]

明治24年8月19日、白猪の滝見物に訪れた正岡子規一行は、近藤本家屋敷跡に宿泊した。子規は「滝湧くや秋のはらわたちぎれけん」の句を残している。子規一行は二泊し山里の秋を堪能。4年後の10月には柳原極堂、1月には夏目漱石が宿泊し滝見物をしている。屋敷跡は、昭和40年9月の大雨による地滑り災害により跡形もなく消滅した。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ  
 1980 小学校から高校まで松山在住  
 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞  
 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞  
 (愛媛県建築士事務所協会主催)  
 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ  
 1996 日本工業大学建築学科 卒業  
 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催  
 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」  
 (新潮社)の装丁担当  
 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)  
 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される  
 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載  
 絵画教室やオリジナルブランド額工房「糊リチエルカ」を設立  
 2017 「えひめの塗り絵」を出版  
 その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。  
 現在、現代日本美術会 会員 / 審査員

# 年頭にあたり

愛媛県建築士会 会長 赤根 良忠



あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、建築士会会員の皆様、賛助会員様並びに建築士の皆様に謹んでお祝い申し上げます。平素は、愛媛県建築士会に対し多大なご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみると、一昨年にも増して新型コロナウイルスの蔓延に依り、社会生活にも多大の影響が及んだように思います。ただ、延期されていた東京オリンピック・パラリンピックも無観客での開催となりましたが、メディアを通じての選手の活躍に感動を覚えました。

当会においても令和3年度通常総会は一昨年同様、出席人数を考慮した開催となりましたが、各種行事においては、開催方法を工夫し、WEB併用の理事会を開催いたしました。また、各委員会活動についてもこの方法での開催で、一定の成果があったようです。

延期されていた全国の建築士の集いである「第63回建築士会全国大会広島大会2021」についても再度、開催できるものと難しいものとリセットを掛け、参加者数の制限や、WEB配信など様々な工夫と努力のお陰で、11月の広島開催に向けて最終段階になった頃、コロナの第5波のピークに直面し、残念ながら現地広島での大会開催を断念せざるを得ないことになりました。建築士の社会貢献の姿を発信する場でもある全国大会を中止してしまうのは残念であり、この来会の重みを考えて連合会役員・関係者の熟慮のうえ、「広島大会」をリモート主体での東京開催（名称は変更なし）することが決まり、連合会及び、開催県であった広島県建築士会の協力のもと、開催にこぎつけることが出来ました。全国の会員同士直接会うことにはなりませんでしたが、これまで作り上げてきた広島大会のテーマ「元気じゃけん！ひろしま 新しい時代へ物語りをつなごう」が十分に生かされた大会であり、今後語り継がれる大会であったと思います。

連合会では国土交通省と「建築物木材利用促進協定」が締結されることになり、この締結により木造建築物の設計・施工に係る人材育成や木造建築物の普及活動が木材利用促進に繋がり、また会員の木造建物の技術向上及び、林業の盛んな当県に於いても木材利用の貢献ができ

るものと考えています。一方、国土交通省では省エネ対策の段階的引き上げ、小規模木造建築物の構造安全に伴う規定など、第三次、四次答申に向けた審議がおこなわれているようです。建築士にとって直面する制度改正であり、注視していかなければならないと思います。

また、建築士の人材確保のため改正された、新しい制度での建築士試験が行われております。学科合格者の設計製図の受験回数の変更もその一つです。建築業界では建築士がまだまだ不足し、有資格者を探しているとの声を耳にします。青年委員会でもコロナ禍で活動が困難な中、建築士試験学科合格者のための設計製図セミナーをSNSにて配信し、多くの反響があり、今後の活動発表の一助としてヒントを得たようです。一人でも合格者が増え、建築士会の会員増につながればよいと思います。

連合会としても全国大会（広島大会）の東京での開催をはじめ、多種の委員会・会議をWEBで開催する等、コロナ禍での事業推進に努め、会員サービスにつながるよう業務を推進しております。専攻建築士登録・更新等に必要なCPD単位取得については、講習会の開催減に伴い取得が困難になっている今、会報誌「建築士」に単位取得のための自習型認定講習の設問を増やし、またWEB開催の講習参加で単位取得が可能になり、CPD単位を必要としている皆さんに大いに活用して頂けたらと思います。

今年度も残り僅かですが、開催を見合わせていた各支部の行事や、各委員会の行事、CPD認定の講習会など計画しています。コロナウイルス対策を行いながら各支部、各委員会と共に協力し業務を推進していきたいと思えます。

ヘリテージマネージャー登録機関としての協議会を今年度中には設立し、既にこの講習修了者の方を愛媛県建築士会認定の「ヘリテージマネージャー」として送り出し、幅広く社会貢献をしていただきたいと思います。

会員増につなげるべく、CPD単位取得のできる講習会案内を関係業界に案内し働きかけもしております。コロナ禍のなかでも時代に即した活動を模索しながら続けて行きます。会員の皆様はもとより関係各位の皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

新年の寅年が愛媛県建築士会にとって、また会員の皆様にも充実したより良い発展の年となるようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 大正時代の道後温泉について

執筆：道後温泉事務所 一級建築士 野本 健

監修：文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹



▲ 大正時代の道後温泉本館（提供：道後温泉事務所）

■ 謝辞くお二人には格別の謝辞を述べたい。>

二神 将

～資料のわかりやすさのための絵葉書の提供

古茂田 進雄

～道後温泉に関する多くの参考資料・文献の提供

■ ことわり

以下記載内容は、現在の道後温泉本館保存修理工事の状況や収集できた文献から総合的に判断した内容を記載している。そのため、調査状況により新たな知見が得られた場合、記載内容に訂正の必要が生じる可能性はある。

## はじめ

道後温泉本館は主に神の湯本館<sup>ゆうしんでん たま</sup>、又新殿・霊の湯棟、南棟(旧養生湯)、玄関棟で構成されている。道後温泉を支えている神の湯は古来よりあった温泉と言われ、多くの文献で取り上げられ調査がなされている。道後がかつて湯之町と呼ばれており、現在の道後温泉本館の原型は初代町長<sup>いさにわゆきや</sup>の伊佐庭如矢、城大工の子孫である坂本又八郎が作ったと伝えられ、多くの書物で当時の経緯などが記されている。

まず、道後温泉本館の歴史の整理を行う。

### ●道後温泉本館改築の歴史

- 明治25年(1892) 養生湯の改築  
(現在の南棟の前身)
- 明治27年(1894) 神の湯本館の改築
- 明治32年(1899) 又新殿・霊の湯棟の改築
- 大正13年(1924) 南棟の改築、玄関棟の建設

これが道後温泉本館の近代の建築に関する歴史の主な流れである。伊佐庭如矢が関わったのは明治25年から明治32年である。伊佐庭如矢が町長であった時代は多くの調査・記録が残っているにも関わらず、それ以降の歴史はあまり調査されず、多くの謎を残す道後温泉本館となっているのが現在の状況である。

今回、道後温泉本館の歴史を調べていて分かってきたことのひとつを取り上げる。それは、現在の道後温泉本館のシンボルとなっている玄関棟、そして南棟の設計者<sup>たいらげん うえもん</sup>「平源右衛門」である。当時の湯之町の建物だけでなく、松山市の有名な建築物を設計した人物でもある。

松山市に建築された多くの建物を設計したにも関わらず、彼の名前はほとんど知られていない。松山市の建築の礎を築いた方が歴史の間に埋もれてしまうことが不憫でならず、このように執筆させていただいた次第である。



▲平源右衛門と妻のハツ（提供：高橋 共和）



▲新栄座（提供：二神 將）



▲新栄座内部（提供：二神 將）

## たいらげん う えもん 平源右衛門

彼の略歴について紹介する。鹿児島県出身で、大蔵省建築部に在籍。その後、愛媛県土木課、日本赤十字支社愛媛支部、そして湯之町の建築技師となる。

愛媛県土木課時代は新栄座の改築、日本赤十字支社愛媛支部時代は日本赤十字病院の建設など、当時の松山市の有名な建築物の設計を行っていた。その功績から、道後温泉に呼ばれることになったと考えられる。湯之町の建築技師であった時代も松山中学校の増築工事、松山カフェーの建設工事も設計していた。

湯之町の建築技師として呼ばれた経緯として大正7年（1918）に「道後温泉増築計画」が発表されたことが理由と考えられる。大正13年（1924）に日本国有鉄道（現在のJR）が松山にくることがわかり、その要因により観光客の増客が見込まれたため、この計画が立案された。

### ●「道後温泉増築計画」とは

- 第1期工事：西湯・砂湯の建設
- 第2期工事：養生湯の改築工事
- 第3期工事：高等湯の建設
- 第4期工事：道後公園内に新湯の建設

かつて浴室は木造でできていたため、傷みが激しかった。養生湯は町民向けの浴場であり、改築工事は必須であり、また、国鉄による観光客の増大に対応するため、家族湯を備えた浴場の建設も必要であった。養生湯の改築工事をするにあたり、町民のための浴場を用意する必要があった。そのため、まず、西湯・砂湯の建設を行う計画となった。

次に平源右衛門が松山市と湯之町に来てから起こった出来事と建設した建物について年代順に解説していく。

# 平源右衛門と松山市・道後温泉

1913-1916-1919

1922

## ■大正2年(1913)

愛媛県土木課に勤務。新栄座の改築を行った。新栄座は現在の大街道とロープウェイ街の間にあり、大阪以外では西日本で一番大きい劇場と言われていた。記録によれば大正2年に改築工事が行われ、新しく食堂が増えたことが記載されている。

## ■大正5年(1916)

日本赤十字社支店愛媛支部に勤務。大正8年に日本赤十字病院の建設。現在のNTT西日本愛媛支店の場所にあった。

## ■大正8年(1919)

日本赤十字病院の建設後、湯之町の建築技師となる。



▲西湯 (提供：二神 将)



▲砂湯 (提供：二神 将)



▲明治時代の道後温泉本館 (提供：道後温泉事務所)



▲大正時代の道後温泉本館 (提供：道後温泉事務所)

## ■大正11年(1922)

現在の椿の湯の位置に西湯・砂湯を建設した。木工事は夷子留蔵が請け負った。

この場所に伊佐庭如矢は松湯・薬湯・牛馬湯という浴場を建てた。松湯は町民向けの無料の浴場、薬湯は傷病者用の浴場、牛馬湯はその名の通り牛馬用の浴場であった。3つの浴場は道後温泉本館の養生湯で使用したお湯を使用する浴場であった。

新たに建設した西湯・砂湯の浴場は道後温泉本館で使用されたお湯を洗浄し、ボイラーで温めて使用していた。そして、西湯・砂湯で使用したお湯を松湯で使用する流れであった。

西湯は男女の浴室があり、2階は小さな休憩室、砂湯は男女の浴室と浅い砂敷きの浴槽を備えていた。砂湯の男女を間仕切る壁の浴槽の下には小さな穴があり、子どもがそこを潜って男湯と女湯を行き来していたようだ。また、砂湯の浴槽は浅かったこともあり、子どもには人気であった。

松山市内では初のカフェである、松山カフェーを建設した。東京で明治44年(1911)に一番最初のカフェーが誕生し、当時はカフェーと最後を伸ばして呼んでいた。松山カフェーは現在の大街道とロープウェイ街の間にあり、平源右衛門が設計した新栄座の隣にあった。建物は3階建の1階はレストラン、2階はホール、3階は座敷で屋上からは石手川を一望できたようだ。

西湯・砂湯が完成したことにより、養生湯の改築工事が始まった。養生湯は温泉が各所から湧く砂湯の状態であった。それを集約してポンプ

を設置し増湯を図り、計画中の高等湯に配湯する計画であった。しかし、多くの議員、町民がポンプの設置に反対し、大正11年10月から大正12年の4月まで工事が止まる事態となった。

## ■大正13年(1924)

玄関棟の建設、養生湯を改築した。

大正12年に農商務省地質調査所の井上地質調査局長に道後温泉の源泉の状況、ポンプの吸い上げによる弊害等を調べてもらっていたが、その報告書を待たずしてポンプの設置はしないことになった。

玄関棟と養生湯(現在の南棟)は神の湯、霊の湯、養生湯の各浴室に行けるよう設計された。玄関棟は最初に出札口として建設され、北側には下足置き場が設置された。このことにより、各浴室の下足場で散乱していた履物が1カ所に集約されたことで利便性が向上した。

また、改築の際に取り外された養生湯の「養生」という看板は平源右衛門の家で保管されていたそうだ。木工事と屋根工事は夷子留蔵、石工事は木村安次が請け負った。

## ■大正15年(1926)

愛媛県松山市・平建築事務所を協同主宰した。松山市の建築技手は後藤種一であった。後藤種一は後に個人の設計事務所を開設し、愛媛県建築士会の初代会長となった。有名な建物に新田中学校本館がある。

## ■昭和2年(1927)

道後公会堂、鷺の湯、湯築尋常高等小学校を建設した。

道後公会堂は現在の子規記念博物館の場所にあり、大正13年に養生湯を改築した際に発生した木材などを再利用したと言われている。道後公会堂は後に戦争の傷病者を看病する場所として利用された。その後、新温泉を建築するために取り壊しを行ったが、その時に道後公民館で「さよなら道後公会堂」というイベントが開かれ、この場所で看病された傷病者が多く訪れたそうだ。

鷺の湯は現在の冠山駐車場の入り口近くにあった。鷺の湯を建設する以前はそこに鮎屋という旅館があり、用地の買収などで大いに揉めた。当初の計画では鷺の湯は観光客向けの高等湯として建設する予定であったが、計画の変更がなされ町民向けの浴場となった。



▲道後公会堂 (提供：道後温泉事務所)



▲鷺の湯 (提供：道後温泉事務所)



▲湯築尋常高等小学校 (提供：二神 將)

当初設計の鷺の湯の図面は建物の外観は洋館を思わせるような造りで、1階に男女の大浴場、4つの家族風呂を備えている。2階には畳約25畳ほどの広さを持つ男女の休憩室を備え、それぞれにお茶を出すための

サービススペースがある。また6畳ほどの家族風呂専用と考えられる個室の休憩室が4部屋用意されている。図面を見る限り大変豪華な浴場であったが、どのような経緯で計画が変更になったかは文献が見つからずわからないままである。鷺の湯が建設されたことで、現在の振鷺亭にあった町民向けの新湯(第7室・8室)は取り壊された。

湯築尋常高等小学校は現在の松山東消防署の場所にあった。道後村との合併により児童数が増大したため、新たな小学校の建設が必要となり、現在のメルパルクの場所に建設した。また、東消防署にあった小学校は大正12年に道後公園駅前に移築され「修名館」として存在した(現在は当時の雰囲気を残し改築を行った姿である)。

### ■昭和7年(1932)

平源右衛門は自宅で個人設計事務所を開設した。学校、病院、会社、銀行、劇場、公会堂、住宅等の設計を行ったが、その時の資料は残っておらず、具体的な建物の名称は不明である。



▲鷺の湯浴室（提供：道後温泉事務所）

### ■平成29年(2017)

道後温泉別館 飛鳥乃湯泉が建設される。その時に道後温泉で保管されていた鷺の湯の湯釜を使用した。平源右衛門が湯之町の建築技師である間、西湯や砂湯には湯釜は無く、唯一製作できた物である。



▲道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 浴室（提供：道後温泉事務所）

## <まとめ>

日本国有鉄道が松山にやってきて入浴客の増大が予想されたため、道後温泉では壮大な増築計画が計画され、古茂田譲を湯之町の町長にすることで計画の実行を図った。道後温泉は国鉄がなくても、明治43年には71万人、大正13年には123万人と多くの観光客が訪れる場所となっており、町民・観光客が多く溢れかえり、増築計画は妥当な考えであった。(平成30年は116万人)

大正11年の西湯・砂湯の建設までは問題なかったが、養生湯の改築で源泉にポンプを設置することが大きな問題となり、計画の中断を余儀なくされた。その後、鮎屋との土地の問題も起こり、いつの間にか鷺の湯は高等湯ではなく、町民向けの浴場となった。道後公会堂も道後公園のドンコ堀の温泉を当てにしていたが、湯量が少なかったため、浴場を合わせ持つことはなかった。

結果的には

- 第1期工事：西湯・砂湯の建設（町民向け）
- 第2期工事：養生湯の改築、玄関棟の建設（町民向け）
- 第3期工事：鷺の湯の建設（町民向け）
- 第4期工事：道後公会堂の建設

という実施内容となった。その後、昭和23年に道後公会堂、昭和28年に西湯と砂湯、昭和38年に鷺の湯が取り壊された。平源右衛門が設計した建物はほとんど取り壊されたが、道後温泉本館の玄関棟・南棟、道後温泉別館 飛鳥乃湯泉で鷺の湯の湯釜を見ることができる。

道後温泉を訪れた際は、この記事で書いた大正時代の道後温泉に思いを馳せてもらいたいと願う。



## ■参考資料

参考で平源右衛門が書いた図面を掲載している。彼が湯之町に来てから各段に図面の量、書き込み量が増えた。これまでは平面図と立面図しかなかったが、各方向の立面図、断面図、詳細図が加わり、より詳細に今は無き建物の様子を知ることができるようになった。今ではこのように各図面を書くことは常識だが、平源右衛門が来たことによって、この常識が松山でも浸透するようになったものと考えられる。

## ■あとがき

今回このように建築士会の会報誌で掲載する運びとなったが、愛媛県建築士会の初代会長である後藤種一が平源右衛門と共に設計事務所を協同主宰していたことは大変縁深いものを感じる。このように松山・湯之町の建築に携わった、平源右衛門について1人でも多くの人に知ってもらいたいと切に願って筆を置く。

## ■参考文献

「道後温泉 増補版」[海南新聞]

「愛媛新報」[愛媛県人物名鑑]

「愛媛県紳士録」

「道後で暮らす語り部の記憶」

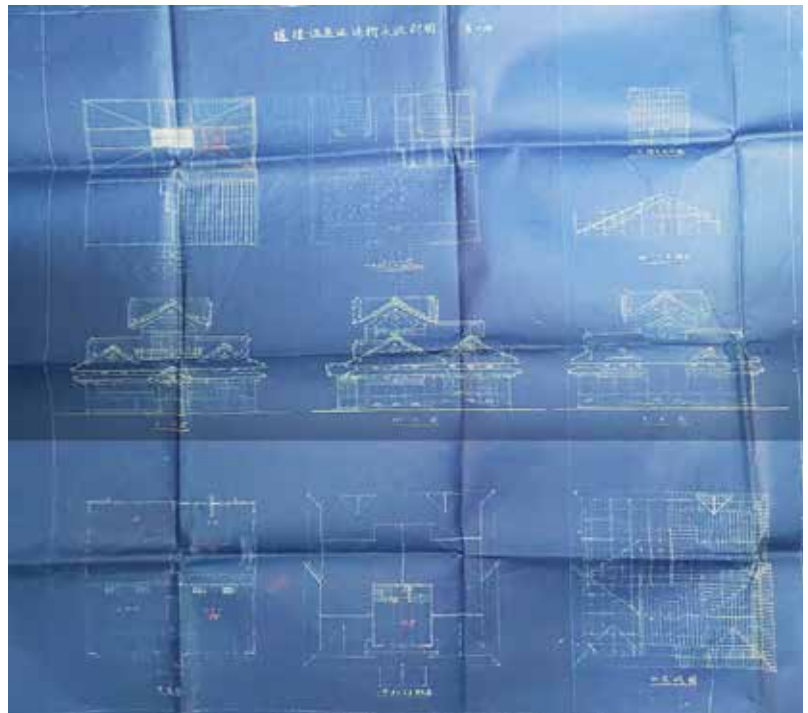
「二神鷺泉と道後湯之町」

「日本近代建築人名総覧」

「わすれかけの街」

「大街道あれこれ物語」

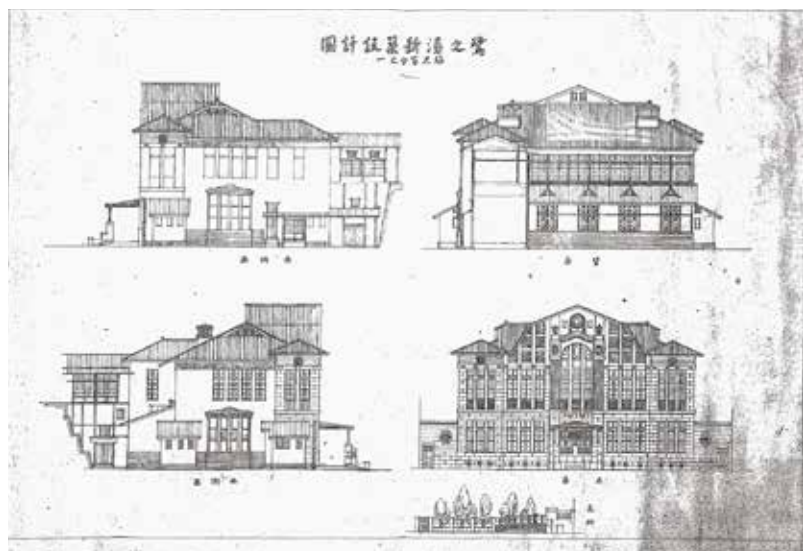
\* 本書掲載の文章・図版の無断複製・  
転載を禁じます。



▲ 西湯の図面 (提供：道後温泉事務所)



▲ 砂湯の図面 (提供：道後温泉事務所)



▲ 鷺の湯の図面 (実現しなかった高等湯 / 提供：道後温泉事務所)

## 1 メキシコへの旅立ち

WHOの2021年度の発表では、メキシコの人口は日本より約80万人多い1億2750万人で世界10位。国旗には湖の中央の岩に生えるサボテンに蛇をくわえた鷲がとまっている国章が描かれています。メキシコシティは標高2300mであるため日本からはアメリカ



▲ 蛇をくわえた鷲の国章



◀ 月のピラミッド

を経由しないと行けなかったのですが、ボーイング787の就航で2017年2月から直行便が飛ぶようになり、グッと身近になりました。ANAの最長路線開設のお陰で、直後の3月に日本を出発しました。

メキシコと言えば砂漠にサボテンが点在した風景やタバスコなど連想しますが、実はメキシコが世界に誇る国立人類学博物館やテオティワカンのピラミッド、世界のリゾート・カンクンのマヤ文明遺跡と大自然があります。ユカタン半島はピラミッドなどの遺跡の他にセノーテや生物圏保護区など未体験の魅力的エリアでした。

## 2 メキシコシティとその周辺

### 2.1 歴史と市内の建築物

祖先のアステカ人達は、一番最後にメキシコ高原に移動してきた部族でした。アステカ族がメキシコ高原に移動してきた時には、平野部は全て他の部族の支配下にあり、定住する土地がありませんでした。そ



▲ 垂直でない建物の外壁

のとき、アステカ族に神のお告げが有り、「ヘビをくわえてサボテンに止まっているワシのいる場所に街を造れ」と言われました。しかしその場所は、湖でした。アステカ族は、神のお告げに従いその湖の中央部を埋め立て、ティノティトラン（アステカ的首都）を造り、その後アステカはメキシコ高原の支配者となりました。そのためメキシコシティの地盤はとても悪く、地震ではよく揺れて被害が出たり、現状の建物のどれもが傾いているように見えます。

一方、旧市街地には窓と玄関ファサードに特徴があるスペイン式のコロニアル様式の建物が建ち並んでいます。スペイン人がメキシコを征服してアステカの遺跡を破壊し、その石で約100年の歳月をかけて造り上げたメトロポリタン・カテドラルを見ると、その荘厳さゆえにアスティカ文明への哀愁を感じざるを得ません。総大理石造りの大劇場、ペジャス・アルテス宮殿は格調あるファサードとアールデコ調に統一された内装で、建築意識の高さを感じさせます。



▲ ペジャス・アルテス宮殿



◀ メトロポリタン・カテドラル

メトロポリタン・カテドラル内部には祭壇の両サイドに教会の奥までいくホワイエのような空間がありますが、床は地盤沈下で体を感じるほど傾斜がついていました。

通りにはジャカラダの花が満開で、至る所に薄紫色の街路樹が見られますが、一步裏通りに入ると落書きだらけの建物の壁が続いていたり、ボンネットが開いたまま修理中の車が何台も道路に放置されていたりするのを見ると、オリンピック以後この国は進歩していないのではないかという錯覚に陥ります。3両繋いだ路線バスが道路の中央を走り、車優先の社会で面食らいました。

ソカロ広場ではラリーの準備が進められていて、次々とラリーカーが運ばれコースがセッティングされています。夜のテレビ番組ではここで開かれている世界ラリーが長々と放映されていました。ソカロ広場周辺では、カテドラルの他にテンプル・マヨールや国立宮殿・多文化博物館などメキシコの歴史を感じる建物が数多く見られました。

## 2.2 メキシコ古代文明を学ぶ国立人類学博物館

中庭に出てみると天井から滝のように水が落ちていて、この中庭を囲んだ建物が展示室となっていました。博物館の展示はアジア・アフリカから人類がアメリカ大陸にやってきた第1室の先住民文化から始まり、第2室のラスコー洞窟の壁画など人類学入門、第3室のアメリカの起源へと続きます。第5室テオティワカン、



▲ 展示室に囲まれた国立人類学博物館中庭

第6室トルテカ、第7室アステカ～第10室マヤにかけての時代に沿った展示が最も見応えがあり、メキシコ国内各地で発掘された遺跡のオリジナル出土品もここに保管展示され、世界的に貴重なものとなっています。

これらの展示や歴史の証拠を目にすると、この中央アメリカでは他にはない深くて貴重な文明が営まれてきたと再認識させられます。世界には人類が脈々と活動してきた証が残されているという事実、自分のマヤ・アステカ文明の知識の浅さのため、一種のショッ

▼ ケツアルコアトル神殿



▼ 死者の世界の“太陽の円盤”



▲ 直径1m程の石の通貨



▲ 心臓を置くチャック・モール像



▲太陽のピラミッド

くと感動を覚えました。中南米のことをまり詳しく学んでこなかったこと、そして知ろうとしなかったことが少し恥ずかしく思えてしまいました。

メキシコを旅して学んだことの一つは、この中世までの人たちは人間を”生け贄”として神に捧げる風習が根強く、それを誇りとするような社会だったことです。スペインが征服してカトリックの布教をしなければ、今でも生け贄の心臓を神に捧げるような人生観をもっていたのではなかろうかと、恐ろしくなります。

### 2.3 都市遺跡テオティワカンのピラミッド

メキシコシティは人口約2千万人という大都市だけあって、かなり郊外の山の上まで家が建ち並び、それが積み木のようにもあり、政策で家を塗装する塗料代を行政が支給するため、それぞれの家の外壁が思い思いのカラフルな色に塗られていて、テオティワカンへ向かう高速道路を走る車の車窓を楽しませてくれました。



▲カラフルな外壁の家



▲月のピラミッド

テオティワカンはメキシコシティの50kmほど北にあり、比較的最近整備された遺跡で、太陽のピラミッド・月のピラミッド・死者の道などが世界中に広く紹介され、メキシコシティから近いこともあって多くの

観光客が訪れています。

このテオティワカンを見るだけでもいいくらいだったのですが、メキシコシティの旧市街を見てその荘厳さと歴史を学び、驚かされました。思っていた以上にメキシコ辺りのメソアメリカ地域は文明が進化しており、まだ解明されていない事もたくさんあって神秘的な魅力を感じたのです。

約1時間も走るとテオティワカンの遺跡に到着、サボテンなどが所々に植えており、メキシコらしい風景になってきました。到着前には月のピラミッドが見え始め、高揚感が増してきました。



▲月のピラミッドから見た死者の道と太陽のピラミッド



▲酒を飲むジャガーの壁画



▲太陽のピラミッドへ登る

テオティワカンの入口にはジャガーの神殿があり、そこをまず見学して中に入ると死者の道が横たわっています。北の端に月のピラミッドがあって、約2kmの死者の道が南へと延びていて、その中央に太陽のピラミッドが聳えていました。これらは、信仰と神事のために造られたそうです。

## 3 カンクン

### 3.1 アエロメヒコ航空でカンクンへ

3日目、ユカタン半島のカンクンへ向かいました。早朝の飛行機でカンクンへ行くため、メキシコ国際空港の第二ターミナルへタクシーで到着。日本から着いたのは第一ターミナルでしたが、ナショナルフラッグのアエロメヒコ航空が使っている第二ターミナルの方が近代的です。

カンクン行きの航空券は日本でインターネット予約しており、本当に搭乗できるのが不安でした。また届けられたメールでどうやって飛行機に乗るのかもわかりません。届いたのは予約番号のみで、実際に空港に行っ何をするすればいいのか、航空会社の係員に聞いて対応するという、初めてにしてはハードルは高かったです。あっちに行け、こっちに行けと言われながら、ロビーの端末に予約番号を入れると、チケットが発行されました。それで予定通りの飛行機に乗れるみたいです。

「あんなに飛行機が並んで待っていたら、いつになったら飛び立つことができるんだろう?」、と思ったくらい朝のメキシコ国際空港は混雑していました。羽田空港の離陸待ちの混雑と比べても、とんでもなく長い時間待ちました。滑走路は並行して2本あるのですが、着陸してくる飛行機もあり、イライラが限界でした。

離陸したら空港に隣接した場所に、旅客機の墓場のような所が目に入りました。旅客機がグレーっぽく塗られて、乱雑に積み重ねられており、日本でもよく見る、車の廃車が山のように積み重ねられた雰囲気と似ています。世界の中には、こんなところもあるんだ、と悲しくなりました。

メキシコシティからカンクンまでは3時間弱のフライトで、東へ移動するため、時差が1時間。飛行機が水平飛行に入ると富士山のような美しい山が窓から見えました。火山なのでしょうか、円錐形の美しい山が目立っていました。

一旦、メキシコ湾へ出て、再びユカタン半島の上空

へ差し掛かります。ユカタン半島はジャングルですが、だだっ広い平原でした。

昔、メキシコ湾にいん石が落ちて、それで海底が盛り上がったのがユカタン半島だ、と聞いたことがありますが、ユカタン半島には山が無い代わりに川も見当たりません。水は地下に染みこんで石灰岩質の地下に水脈を作り、一部が陥没して7千ほどもあるセノーテ丸い泉ができています。

世界のリゾートといわれるカンクンのホテルは、滞在型のオールインクルーシブという飲食物とアトラクションを含んだ料金体系が多いのですが、今回の旅は昼間オプションツアーで遺跡やセノーテを探検する計画なので、ホテルでは夜寝るだけになり、ちょっとリゾートでノンビリという気分ではなかったかもしれません。

### 3.2 カンクンのピラミッド、エルカステージョ



▲チチェン・イツァ遺跡のエルカステージョ

カンクンからユカタン半島を西へ約160km行ったところにチチェン・イツァ遺跡があります。まだ、暗いうちにホテルを出発したので、途中、地平線から太陽が昇ってきました。高速道路を延々とぶっ飛ばして走りますが、ほとんど他の車を見かけません。風景が変化しないジャングルの中に行くという感じ。

チチェン・イツァ遺跡には午前8時前に到着したので、一番乗り。まだ、あまり人影もなかったのですが、帰る頃にはごった返すような大勢の人が押し寄せてきました。



遺跡に入場すると、たくさんのイグアナがいて、出迎えてくれます。広場に入って、ドッカーンとピラミッドが目飛び込みます。これが長年見たかった、エルカステイジョかあ、と感動です。ガイドさんが、「ピラミッドがマヤ暦を表している」、ということを入りに説明してくれました。他にハアブ暦などありますが、このピラミッドはカレンダーそのものらしい。



▲イグアナがお出迎え



▲正面階段の蛇の頭



▲最上部の神殿



▲壊れたままの裏面

ピラミッドの正面階段にはククルカン（羽毛のある蛇神）の頭が両サイドに祀られています。最上部の神殿の入口は3カ所あり、ピラミッドとしても一番美しい姿。春分の日と秋分の日には、太陽の光の加減でこの蛇の頭に胴体が影として浮かび上がり、ククルカンが現れます。左側の影が、ピラミッドの凸凹でギザギザに見える仕組みで、見事な蛇が浮かび上がります。この神殿の内部にはさらに神殿があって、そこには生け贄の心臓を置くチャック・モール像があるそうです。このピラミッドの2面はかなり精巧に作られています。残りの2面は修復されておらず、まだ傷んでいます。

### 3.3 グランセノーテとイル・キルセノーテ



◀光のカーテン

▼上からのグランセノーテ



グランセノーテは、ユカタン半島の約7千あるというセノーテの中でも一ニを争う美しさで、いつも多くの観光客で賑わいます。

「水が濁って透明度が下がる前に光のカーテンを見ておくべき」とガイドさんが言うので、朝真っ暗な内にカンクンのホテルを出発。グランセノーテに到着したときは、セノーテは開場前の時間で、一番乗りグループでセノーテに入ることになりました。グランセノーテの水はやや冷たかったけれど、見事な光のカーテンが現れました。

グランセノーテに続いて、ユカタン半島の東岸に沿ってベリーズ国境まで南北100kmに渡って広がるシアン・カアン生物圏保護区へ行きました。ありのままの自然の中、ラグーンの水路を歩くようなスピードで流れます。ガイドブックにはシアン・カアンは水鳥や野生そのものを観察すると紹介されていましたが、背の低いマングローブが生い茂るラグーンの水路を、ライフジャケットを足から履いてゆっくり流れていくトレイルでした。ここは1日の入場者数を制限していて、

自然に影響がでない環境となるよう観光客を管理していました。

イク・キルセノーテにはチチェン・イツアを見た後、立寄りました。上から見ると直径30m程の丸い地中の泉で多くの人が泳いでおり、飛び込み台もあります。



▲ライフジャケット装着



▲自然の水路を流れる

そこは行列ができると聞いていましたが、空いていたので一番高い5mの台から飛び込んだところ、歓声と小さな拍手が聞こえました。頭が水面に出てくるまでの時間が長く感じられますが、顔を出すとスッキリ。ライフジャケットを着ていないので、水深が50mと聞くと少し不安は感じたものの緊張感が心地いいものでした。

セノーテ周辺から地下水が湧き出して40mほど下の水面に落ち、植物も水を求めて長い根をセノーテの水面まで伸ばしているという、美しい風景そのものです。



▲上から見たイク・キルセノーテ



セノーテの口▶

### 3.4 ジャングル探検クルーズ

カンクンでは免許証なしでモーターボートを運転できるので、ラグーンの中のジャングル探検クルーズに挑戦。低木のジャングルの水路を抜けて、カリブ海の沖合の浅瀬で泳ぎます。世界中からの観光客と一緒に、美しいカリブ海を満喫しました。

ラグーンでは10隻程のボートが縦に連なって走っていましたが、みんな初めて運転する割には、スピードが60km/hほど出ています。ボートのスピードを上げて走ると、他のボートの後波に上手く乗れず大きく揺れたりしますが、なんとか無事に操縦ができました。



▲ジャングルの水路を進む



▲初めてのカリブ海

## 4 メキシコの旅を終えて

カンクンを国内線で夕方出発して、メキシコシティへ向かいます。メキシコ国際空港で乗り継いで、深夜発のANA直行便で成田へと帰りました。この飛行ルートは西へ向かって14時間飛ぶため夜が明けず、暗闇を飛び続けて朝5時過ぎに成田に到着。折角窓側の席だったのに風景がほとんど無く残念です。長時間フライトの覚悟はできていたので退屈することなく機内も楽しむことができました。

メキシコは世界をリードするリゾートとして想像以上の発展を遂げており、欧米からの路線で観光客が直接やって来ていました。それに加えて、まだまだ謎の多いマヤ・アステカ文明とその遺跡が世界中から注目されて、ジャングルに眠る古代ロマンを求め、ますます魅力的な国に成長していくポテンシャルを実感しました。

# 年男・年女の抱負

## 継続・研究・集中

四国中央支部 岸 良一

新年あけましておめでとうございます。大学時代の少林寺拳法部の監督の先生の最初の言葉でとても印象的で時々思い出す言葉が、継続・研究・集中です。技を習得しようとする時に必要なことのお話だったと思いますが、仕事でも趣味でも何かを成し遂げようとする時には当てはまる言葉だと思います。年男となりますが、今のところは特別なことをしようとは考えてはいません。今年も、いろんなことにチャレンジし、継続・研究・集中して乗り越えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 一番若い今年にできること

四国中央支部 斎藤 清至

これからの人生を考えると今年が一番若い……。年男として今年48歳になりますが、早いもので愛媛に移り住んで21年目、独立開業して7年目になります。子供の頃と違い、大人になってからの一年は本当に早く、ちゃんと歳をとるごとに成長できているのか不安になる事もあります。周りの人に支えられての一年になるとは思いますが、今年一年を大切に、一番若い今年にしかできない事にチャレンジし、成長を実感できればと思います。

## 気付けば年男

新居浜支部 浅野 憲一

新年あけましておめでとうございます。もうそんな歳なんですね……。この原稿の連絡で節目の年だったことに気が付くくらい、あっという間に過ぎ去っていく日々。もうすぐやってくる節目の50年に向けて少しずつ時間を落ち着けていく一年にしたいところです。が、やっぱり早いんだらうな……。昨年初めて東北を訪れ、仙台・石巻・十和田・青森・弘前・酒田と建築巡りをしてきました。今年もどこか刺激を受けに訪れる事は目標にしています。

## 今年、還暦を迎え思ふこと

西条支部 越智 忠美

新年あけましておめでとうございます。私は今年の誕生日を迎えて還暦です。時の経つのも早いもので、定年に手が届く年齢となり、人生を振り返る

と、仕事に関しては多くの仲間に助けられ、ある程度の成果を残すことができました。また、私生活では、最近、長男に可愛い女の子が生まれ、たまにLINEで送られてくる孫の写真や動画を楽しみに日々過ごしております。

私の60年間の人生において、何かをやり忘れた様な気がします。今日からは、新たな気持ちで残された人生を生きようと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## 年男の抱負

今治支部 越智 泰弘

高校生の時に建築の仕事をしたと思ってから20年、36歳の年男を迎えた。自分の携わった建物が目の前で形になった時の感動は今も変わらない。これこそがこの仕事の醍醐味であると思う。

私の息子は今「マイクラフト」というゲームで、木やガラス、コンクリートなどの様々なブロックを使って建物を作るのに夢中になっている。私の仕事の影響もあるのかと思うと、親としては嬉しいものだ。スイスイと建物を作り上げていくマイクラ歴5年の息子に負けないように、そして「トラ」のように威厳のある父でいられるように、これからも日々精進していきたい。

## 年男の縁起を担ぐ

松山支部 白石 学

新年あけましておめでとうございます。

松山支部で青年・女性委員長を務めている白石学です。仕事では新企画設計にて設計室長の役職に就いて、愛媛県内での重要な設計物件の担当もさせていただいています。今年が寅年で、年男と言うことで投稿依頼をお受けしました。

調べてみると、年男・年女とは、年神様の御加護を多く受けることができると考えられており、縁起が良い人と言われているそうです。重要な神事や儀式にも係わり、他の人たちより縁起が良いとの事です。

と言う事は、今年は縁起のいい私自身が中心に立って活動し、まわりを盛り上げなければいけないと言う事だと思います。縁起が良いので、良い結果も出るにちがいないと思います。前から出しゃばりだと突っ込まれるかもしれませんが、ポジティブ思考なのですみません。

新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度は中止、今年度は延期になっている松山支部での「建築士の日」の行事についても、この年明けの1月22日に実施しようとして計画中です。

椿小学校と椿小おやじの会と協力して、小学生を対象にしたイベントを予定しています。第二回「家づくり体験 建築模型を作ってみよう」を無事に開催できる様に



準備を進めます。

参加した子供達に少しでも建築に興味を持ってもらい、建築の道に将来進んでみたいと思う人が現れたらと、その中から建築士会の会員が1人でも出てきたら……と、ひとり夢んでいます。

プライベートでは、この1月30日に2回目の挑戦となる「愛媛マラソン」に参加します。颯爽とはいかないと思いますが、伊予路の42.195kmを駆け抜けて、その勢いを持ったまま今年1年を、建築士会の活動でも設計業務でも駆け抜けたいと思います。そして愛媛県建築士会と、愛媛の建築を盛り上げていきたいと思っています。

皆様、今年1年も宜しくお願い致します。

## これからの12年

松山支部 松平 定真

振り返ってみれば、12年前の36歳の年に以前勤めていた会社を退職し、独立しました。

独立してからは、建築士会の活動を通して知り合えた沢山の方々に仕事の面でもご縁をいただき、今日まで続けてこられました。人との繋がりの大切さを知った12年でした。

これからは、お世話になった方々に恩返しができる12年に。また、先輩からも後輩からも頼っていただける人になれるよう、日々真面目に取り組んでいこうと思います。

## やっぱり今年も!!

松山支部 西山 ゆか

年女と言われて初めて自分がその年になったことに気づきました。いつの間に……、そんな年に? 毎年新年に今年は季節を感じる暮らしをしよう!! と決意し、七草粥を食べる辺りで日々の生活に追われ、気が付けば12月、そんな数年が続いています。家で過ごす時間が増えたここ2年の生活で自宅で過ごす時間の大事さにも気づき、その大事な空間作りのお手伝いができる仕事ができる事が楽しいので、やっぱり今年も現場で楽しくお客様とお話する1年になるのかな〜と。

## 年男・年女の抱負について

伊予支部 西田 有輝

昨年、先代の社長が身を引き、会社の代表をすることになりました。いざ代表といわれても、あまりピンとこないところです。色々分からないことも一人で何とかこなしている毎日です。

ふと気が付くと自分も48歳、年男。今年からはもっと頑張れる年にしないと。と、なにげに考えています。

あと何年この仕事を続けていけるのかわかりませんが、健康に気を付けて、怪我もせず、なるべく長く続けられるように成長していこうと思います。

## 寅年の私

八幡浜支部 矢野 美紀

あけましておめでとうございます。八幡浜支部の矢野美紀と申します。年女という事で、ご挨拶させていただきます。

寅年という事と関係あるかわかりませんが、今まで、考えるより、先に身体が動く事が多々あり、周りからは、もっと全体を見て考えて行動していかないと、年なんだから…と言われてしまう私です。それでも、周りの方々からは良くして頂くことが多く、有難いなあと感謝の気持ちでいます。

今年も、こういう私ですが、少しは改善していきながら、楽しく過ごせていたらって思いますので、これからも、宜しくお願い致します。

## 新年を迎えて

新予支部 和氣 巨秀

新年あけましておめでとうございます。

平成30年の豪雨災害での被災から、はや3年半が経ちました。以降、災害復旧工事に追われ、がむしゃらに仕事をしてきましたが、振り返ると改めて時の過ぎる速さに驚きます。そういえば昨年の新年の目標「ひとつひとつを丁寧に、自分に妥協しない」を出来たのだろうか。

この目標をたてたことを覚えていたので意識は出来ていたのだらうと思います。今年も忙しさにかまけることなく去年以上に励み成長していきたいと思っています。

## 1962

宇和島支部 藤井 英樹

1962年、東京人口1000万人突破・ジャニーズ事務所創設・マリリンモンロー謎の死、そんな年に生まれて60年。出会った人達に感謝の思いでいっぱいです。

前回「次の年男まで突っ走るぞ」と抱負を語っていたようですが、後遺症か今や歩くのが精一杯。デジタル時代に追い越され焦燥感も無くはないですが、焦らず時には道草しながら五感を頼りに進んで行きたいと思っています。

人生100年と言います。あと40年も何をしようか…。

# ヘリテージ研修会報告

松山支部 大塚 美由紀

日時：令和3年10月16日(土)

場所：西予市 龍澤寺、芝家住宅

西予市で開催された文化財・まちづくり委員会主催のヘリテージ研修会へ参加して来ました。

私がヘリテージマネージャー養成講座を受講したのは平成28年度の事でした。その後はヘリテージに関する仕事も活動も無かったので、勉強した内容も記憶の彼方へ飛んでいっている状態でした。コロナ禍で長引く巣籠もり生活やオンライン会議疲れでストレスが溜まっていた所に研修会の案内が届き「久しぶりにマイナススイオンでも浴びに行こう」くらいの気持ちで申し込みをしました。龍澤寺についての知識はゼロだったので「山の中の鄙びたお寺かな」と思っていたのですが、禹門山龍澤寺は曹洞宗中本山の格式を有する歴史の古い寺だと知り驚きました。歴史の概要については省略しますが、修行禅寺の建物全て七堂伽藍（山門、本堂、法堂、禅堂、庫裡、東司、浴室）が残っている事からも寺の規模の大きさが想像出来るかと思います。（龍澤寺の周辺は龍澤寺緑地公園として整備されています）

偃月橋を渡って境内に入ると仁王門があり、山門までの長い石段が続きます。仁王門には「不許葦酒入山門（くんしゅにゆうざんもんゆるさず）」の石碑があります（意味が気になる方は検索してください）。他にも様々な教えを書いた額や張り紙があり修行を行なう禅寺の空気を感じます。

山門は「三間一戸八脚門」の木造2階建て、入母屋造りの重厚な建物です。木鼻の彫刻「籠彫り」が見事でした。山門から更に石段を上がると中雀門と回廊があります。回廊は座禅堂と庫裡に繋がっています。

本堂は梁間8間、桁行27間の木造平屋建て、屋根は変形入母屋と寄棟の二種類。中に入ると1間巾の土間と板廊下が27間平行してあり、規模の大きさを感じます。床下にも入り、番付があるのも確認出来ました。

他にも方丈の間や書院、庫裡棟を見て回りました。庫裡には大きな竈（現役）があり、50人分のまかないが出来た大きさです。全盛期には50人以上の人がいたと推察される事からも龍澤寺の大きさを実感しました。

七堂伽藍の説明は、現在この寺の調査をしている宇和支部の酒井純孝さん、山門の説明は峰岡秀和文化財まちづくり委員長が務めてくださいました。分かりやすい説明で、復習と新しい発見に満ちた時間を過ごせました。

午後からは場所を移して芝家住宅を見学しました。



▲龍澤寺境内図



▲偃月橋



▲仁王門



▲山門へ続く石段



▲山門の小口鼻の彫刻



▲座禅堂



▲方丈の間



▲ 本堂



▲ 芝家外観



▲ 本堂土間廊下



▲ 調査図面



▲ 1階の様子



▲ 床下の様子



▲ 番付



▲ 2階の様子

芝家の屋敷の前は県境から流れる安尾川。その川に沿って江戸時代からの主要幹線道路が存在し、芝家の裏には伊予の番所跡の石碑が残っているそうです。土佐藩士が泊まった旧庄屋という歴史が興味深いです。建物は木造2階建てのつし造り、1階は田の字平面に近い間取り、2階にはお産部屋、板の間、床の間付きの座敷があります。養蚕業をしていた痕跡も残っていたそうです。

現在は西予市が移住者向け住宅に改修するため工事を行なっています。敷地が前の川底より低く湿気が多いため蟻害に遭った部材を撤去している所を見学しました。

芝家の説明は、引き続き酒井さんと改修工事を担当している西予市役所の水口さんが務めてくださいました。



▲ 2階座敷からの眺め

# ジューサンケンチクセツケイ 石村です。

松山支部 石村 隆司

河合優志さんよりバトンを受け取りました松山支部の石村と申します。卒業後、松山市の設計事務所に就職、その後住宅会社や内装業の会社に勤め、平井町で2012年に設計事務所を開設しました。士会とのお付き合いもその時よりスタートさせて頂いています。

開設当初、法規の解釈や確認申請作業に不慣れな私に色々教えていただき助けてもらったのが河合さんです。そして士会東地区に在籍当初、当地区代表の渡邊さんにもたくさんの建築士さんを紹介していただき早く会に馴染むことが出来ました。

会報誌「いしづち」を拝見しながら、【けんちくの輪】を書かせていただく順番がそろそろまわってくるかな…と。小学生の頃から文章を書くのが非常に苦手な悪戦苦闘しながらかいておりますのでお許し下さい。

## （建築を志した理由）

父親が大工だったのが一番の理由です。私が小学生の頃には既に第一線から退いて近所の住宅や倉庫、リフォームなどを手掛けていましたので、よく建築中の現場に行っただけで遊んで（邪魔して）いた記憶があります。コンパネ板に墨壺で縦と横の線が入り、いろは・一・二・三・の記号が振り分けられた図面だけで組立ていく姿に「カッコいい」と思いました。

それともう一つ、建築現場に行くと好きだったのが木の匂いです。鉛筆を削った後の様な木の香りがたまらなく好きでカンナくずを持って帰ってはよく母親に叱られていました。

高校も建築系を目指して徳島県の学校へ進学、寮生活で同じ興味をもつ仲間たちと出会った事で益々建築が好きになりました。自分で書いた設計図を基に父と家作りができればと思っていましたが、僕の経験値がつく前に他界したためかなわなかったのが今でもとても心残りです。

## （すきなこと）

河合さんとかぶってしまうのですが、私も小学生、中学生の頃はプラモデルに夢中でした。ちょうど「ガンブラ」が流行っていた頃で、戦闘シーンのジオラマなど完成した写真を模型雑誌に投稿して高評価をもらえるように工夫していました。

絵を書くのも好きだったので、高校時代はラクビー部に所属していましたが、美術部にも籍を置いていて油絵にもチャレンジし、一度だけ全国入賞を果たし巡回展示されたことが自慢です。

当時通っていた高校では在学中に免許をとってもよかったので取得後はバイクにのめり込みました。お金も無かったのでバイトの少ないお金でヤマハRZ350を中古で購入、これが初めての愛車になったのですが……約2年で廃車、派手にこけてしまいました。



▲学生の頃、バイク仲間と

車の免許も取りましたが、その後も数台バイクを乗り継ぎました。仕事が忙しくなってからは専ら車を利用する機会が増えたのですが、20歳の時に買ったバイクは手放さずに今でも大事に乗っています。

現在はブームにもなっている「キャンプ」がお気に入り。区画サイト内にどうテントをレイアウトしようか？ 出入口の向きは・タープとテーブルの配置は？ など考えてしまうのは職業病なのかも。



▲この後、大雨になったキャンプ

これから寒くなってきたらテント内で薪ストーブを焚き、暖をとりながらつるぐ事がとても楽しみです。

父への憧れから入った建築業界、まだまだ勉強不足でまわりの方にもご迷惑をかけることも多々……。だからこそ周囲の皆様への感謝の気持ちを忘れないようにこれからも誇れる設計士となれるよう頑張っていきたいと思えます。

まとまりのない文章で失礼しました。

今回は松山支部大西さん（前事務局長）にバトンタッチさせていただきます大西さんよろしくお願ひします。



▲趣味が高じてガレージ作成も開始

## よもやま話

宇和島支部 石川 淳

困った、実に困った……。宇和島支部の石川です。(憐愛媛建築住宅センターの和泉さんにバトンを頂いたのですが、書くことがない。いや、「けんちくの輪」自体はつきり言って読んだことがないし、知らなかった。(すみません)

とりあえず過去の「いしづち」を見てみたら、「青年部活動を振り返って……」とか、「委員会活動を振り返って……」とか、なるほどそういうことを書くのかと思ひ振り返ってみたら、余りにも時間が立ち過ぎていてピンときませんが、40年程を振り返ってみます。内容のないどうでもいいことをダラダラドクドク書きますので、時間のない方は飛ばしてください。

私、来年年男です。高校の建築科を卒業して宇和島市内の設計事務所に勤務。二級建築士の受験一年前の21歳の頃に、当時宇和島支部が行っていた二級建築士受験の講習会に参加するために、準会員になったのが建築士会との出会いでした。

無事合格し、晴れて正会員になりました。

正会員になって、多分青年部にも所属したのかな？よく覚えていませんが、余り、いや全く活動もせずに会費だけ払っておりました。

当時22～23歳、青年部卒業が40歳でしたから、約倍半分離れているわけつまんなかったんでしょうね。30歳頃になって、親しい先輩たちが青年部長を務めるようになってからお声が掛かり参加するようになりました。青年部といえば一度40歳で卒業したのに定年延長で43歳頃復帰し、45歳で二度目の卒業をさせていただきました。あれはいったい何だったのでしょうか。

一度目の卒業の2・3年前、「情報委員に石川君を」と本部より指名ですって連絡があって、拜命することになったのですが、行って理由がわかりました。建築士会のホームページを、お金を掛けず自分たちで作る為に徴集されたのでした。

当時、宇和島支部の平さんが作られた壮大な宇和島支部ホームページがあり、愛媛県建築士会や宇和島市で検索をかけると、その宇和島支部のホームページが一番に出てくる状態でした。私は平さんから引き継ぎそのホームページの更新やメンテナンスを行っていたので目をつけられてしまったようです。

正直、大変でしたね、多少詳しいというだけで素人の集まりでしたから。誰も言うてくれないので自分で言いますが、メンバー皆よく頑張ったと思いますよ。

私のPCのデータサーバーには30年近く前からのデータが残っているので、探してみたらありました。



左上：宇和島支部HP

右上：県HP 最初の頃、世に出たか不明

左下：県HP 多少それらしくなった頃

右下：県HP 業者に委託する前の最終形

時代というかレベルがわかりますね。最終形なんてむっちゃ頑張りましたよ。どんどん要求が増えてくるけど、なんとって素人集団ですから。おまけに自宅で作業ができるもんだから……。

いかん、愚痴になってしまいそうなのでこの話題はこの辺りで。でも、今となってはいい思い出です。

さて、あと少し……なに書こうか……。

そうそう、私が30年近く続けているのが文化財調査。といっても、長いだけで全く成長していないのでお恥ずかしいかぎりなのですが、ヘリテージマネージャー講習会も受け、続けています。最近も岩松重伝建の調査にも参加させていただいて、暑い中、寒い中、大変でした。

なんとかうまく進んでくれたらと思いますよ、まだまだ先は長そうです。



▲三間 赤松家

今回の目標が「内容のないどうでもいいことをダラダラドクドク書く」だったので目標達成ということで、キーボードを置かせていただきます。貴重なページを本当に申し訳ない。今後誰に頼まれても迂闊に引き受けないように肝に銘じます。

次月号はまともな文章を期待して、宇和島支部副支部長の与那原浩さんにバトンを回します。

# 謹賀新年 2022年

<p><b>株式会社 国代耐火工業所大阪支店</b> 支店長 岩城 隆晴 〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町4-6-16 TEL06-6229-9246 FAX06-6229-9247 <a href="http://www.agorabrix.co.jp">http://www.agorabrix.co.jp</a></p>	<p>自然を生かし未来へ繋ぐ <b>株式会社 宮田建設</b> 代表取締役 奥田 賢司 〒798-0004 愛媛県宇和島市朝日町4-3-25 TEL0895-22-1567 FAX0895-25-0009 <a href="http://miyata-kensetsu.jp">http://miyata-kensetsu.jp</a></p>
<p>地盤調査・地盤改良・建築3D <b>株式会社 ライフベース</b> 代表取締役 濱田 康佑 〒791-1121 愛媛県松山市中野町177-4 TEL089-993-5856 FAX089-903-1177 <a href="http://www.lifebase.co.jp">http://www.lifebase.co.jp</a></p>	<p> <b>株式会社 友清白蟻</b> 代表取締役 山辺 利成 〒799-2654 愛媛県松山市内宮513番地 TEL089-978-2630 FAX089-979-6212 <a href="https://tomokiyo.co.jp/">https://tomokiyo.co.jp/</a></p>
<p>創業30余年の信頼と実績 <b>有限会社 福田瓦工業</b> 代表取締役 福田 大輔 〒791-8041 愛媛県松山市北吉田町1022番地1 TEL089-968-6118 FAX089-968-6119 <a href="https://fukuda-kawara.co.jp">https://fukuda-kawara.co.jp</a></p>	<p>一般社団法人 <b>愛媛県中小建築業協会</b> 会長 佐々木 敬史 〒790-0878 愛媛県松山市勝山町2-3-1 TEL089-943-5525 FAX089-943-5545 <a href="http://hime-ken.com">http://hime-ken.com</a></p>
<p>地域社会に貢献する総合商社  <b>株式会社 シンツ</b> 代表取締役 村上 高志 松山本社 〒790-0054 松山市空港通二丁目12番5号 TEL(089)974-8005(代) FAX(089)974-2290(代) <a href="http://www.shintsu-group.co.jp">http://www.shintsu-group.co.jp</a></p>	<p> <b>株式会社 二宮工務店</b> 取締役松山支社長 二宮 広明 〒790-0934 愛媛県松山市居相4-22-18 TEL089-956-2888 FAX089-956-2889 <a href="http://www.ninomiyakoumuten.com">http://www.ninomiyakoumuten.com</a></p>
<p><b>kiss コーエキ 株式会社</b> 代表取締役 明関 勉 〒790-0913 愛媛県松山市畑寺3-11-31 TEL089-946-1141 FAX089-932-8499 <a href="http://www.kissjp.com">http://www.kissjp.com</a></p>	<p>家を守る 地球を守る やさしいガラス  <b>八松硝子建材(株)</b>  代表取締役 佐々木 隆司 〒791-1102 愛媛県松山市来住町14-4 TEL089-975-3309 FAX089-975-3310 <a href="http://www.hassho.net">http://www.hassho.net</a></p>
<p>スタイルフォーム、各種断熱材を提供する <b>木野内化成産業 株式会社</b> 取締役社長 山内 正卓 〒790-0052 愛媛県松山市竹原町1-5-5 TEL089-941-9242 FAX089-932-7212 <a href="http://kinoutikasei.co.jp">http://kinoutikasei.co.jp</a></p>	<p>人と自然の調和  <b>尾藤建設株式会社</b> 代表取締役 尾藤 淳一 〒799-0101 四国中央市川之江町2250 TEL(0896)58-2426 FAX(0896)57-1563 <a href="http://bitoh.co.jp/">http://bitoh.co.jp/</a></p>
<p> <b>株式会社 愛媛建築住宅センター</b> 代表取締役 井上 竜治 〒790-0003 愛媛県松山市三番町4-4-7 松山建設会館3F TEL089-931-3336 FAX089-931-3362 <a href="http://www.ehime-center.co.jp">http://www.ehime-center.co.jp</a></p>	<p> <b>株式会社 三州瓦センター松山</b> 代表取締役 西村 壮平 〒791-3163 愛媛県伊予郡松前町大字徳丸1197-1 TEL089-909-6830 FAX089-909-6850 <a href="https://kawaracenter.jp">https://kawaracenter.jp</a></p>

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

## 株式会社 松山合板社

代表取締役社長 大野 健夫  
〒790-0062 愛媛県松山市南江戸1-2-2  
TEL089-931-8268 FAX089-933-9274  
<http://www.matsugou.jp>

## 愛媛県しろあり対策協会

会長 友清 重孝  
〒791-8001 愛媛県松山市平田町502  
TEL089-979-6692 FAX089-979-6692  
<http://hakutaishikoku.com>



## 愛媛総合警備保障株式会社

代表取締役社長 阿部 克彦  
〒790-0054 愛媛県松山市空港通二丁目6番27号  
TEL089-971-2010 FAX089-974-0551  
URL: <https://www.alsok-ehime.co.jp>



丸亀営業所 / 〒763-8510 香川県丸亀市土器町2丁目88  
TEL.0877-24-5484 FAX.0877-24-4950  
<http://www.kansai.co.jp>

## 佐藤建設 株式会社

代表取締役 佐藤 太  
〒793-0044 愛媛県西条市古川甲148番地84  
TEL0897-47-4011 FAX0897-47-4012



代表取締役 横田 郁  
〒791-8015 愛媛県松山市中央一丁目9番20号  
TEL089-922-4181 FAX089-923-3843

## トス愛媛 株式会社

代表取締役 加藤 明宏  
〒790-0925 愛媛県松山市鷹子町442-1  
TEL089-955-7733 FAX089-955-7734  
<http://www.tosehime.co.jp>

## 株式会社 岸之上工務店

代表取締役 岸之上 憲一  
〒780-0033 高知県高知市西泰泉寺435番地1  
TEL088-822-2222 FAX088-822-5833  
<http://www.kishinoue.co.jp>

## 総合資格学院 松山校

学校長・支店長 山下 健司  
〒790-0003 愛媛県松山市三番町7-13-13ミツネビルディング7F  
TEL089-947-2611 FAX089-947-2622  
[http://www.shikaku.co.jp/guide/chugoku\\_shikoku/matsuyama/top.html](http://www.shikaku.co.jp/guide/chugoku_shikoku/matsuyama/top.html)

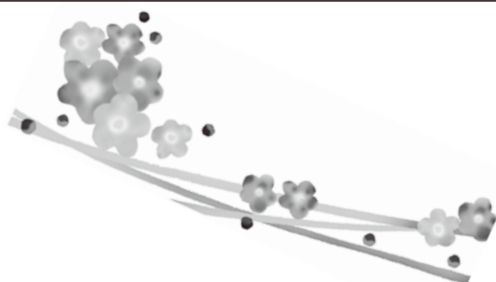
オフィスの未来に、ちょっとソリューション。



アカマツ株式会社 松山本社 / 〒790-8533 松山市福音寺町235番地1 TEL:089-975-1234 FAX:089-976-6364  
営業所 / 宇和島・八幡浜・大洲・今治・西条・新居浜・四国中央・普通寺・高松・徳島・神戸・東京  
[www.akamatsu.co.jp](http://www.akamatsu.co.jp)



松山支店 松山市三番町7-1-21 ジブラルタ生命ビル3F  
TEL089-913-6311 FAX089-913-6353



私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

### 「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和4年 3月号 (145号) 令和4年1月27日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛  
FAX 089-948-0061

## 編集後記

私、個人的には、地元愛・愛媛愛が強いため、地元で作られたものを使用したり、購入したり、地元の企業を活用することが、地元の経済が潤って良いのではないかと考えています。

偏った意見ではありますが、現在、建設業界で話題になっているウッドショック「輸入木材価格の高騰」ですが、地元愛や愛媛愛の観点からすると、輸入木材の購入で海外に出ていた経済も地元の木材を使う頻度が上がることで、地域の林業や製材業に経済が留まり潤い、良いことの様に思えます。

ウッドショックの原因は、コロナ禍の海外での住宅ブームなど原因はいくつか考えられ、それらが複合的に絡み合っており、専門家もいつまで続くのか分からないそうです。

そして、残念ながら県内林業が減っていることや乾燥機の台数に限りがあることなどから、早急な対応は難しいようですが、愛媛の総力を上げて、地元の林業や製材業で対応が出来れば良いと思っています。愛媛の林業を応援します!

### 〈いしづち〉2022/1

令和4年1月発行

発行人 会長 赤根良忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/赤松 慶隆 門屋 広一 成松弘之助 西森 勉 花岡 晶子